

## 環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 審査委員会特別優秀賞 採点表（平成 26 年版）

環境報告書としてすぐれていることに加えて、新しい国際的な枠組みに対し積極的に取り組んでいる報告書や、統合思考や長期ビジョンを打ち出している報告書、バリューチェーン・マネジメントやダイバシティ・ポリシー及び情報の質の担保において特に優れた報告書。

### 1. マテリアリティ選定プロセス MAX 20 点

- |                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| ① 経営トップが選定に関与していることが明記されている。      | MAX 15 |
| ② ステークホルダーを巻き込み、ダイアログの意見も取り込んでいる。 | MAX 10 |
| ③ マテリアリティ選定プロセスが明記されている。          | MAX 10 |
| ④ 企業のマテリアリティ選定のストーリーが読み取れる。       | MAX 7  |

「3」 大変すぐれている

「2」 普通

「1」 劣っている

「0」 記述なし

### 2. バリューチェーンマネジメント MAX 20 点

- |                                       |        |
|---------------------------------------|--------|
| ① 部分的にせよ、CSR デューデリジェンス(D. D.)を実施している。 | MAX 15 |
| ② CSR 調達基準を公開している。                    | MAX 10 |
| ③ 部分的にせよグリーン調達について D. D. を実施している。     | MAX 10 |
| ④ グリーン調達基準を公表している。                    | MAX 5  |

「3」 大変すぐれている

「2」 普通

「1」 劣っている

「0」 記述なし

### 3. 統合思考 MAX 20

- |  |        |
|--|--------|
| ① 2030 年、2020 年代の中長期の CSR(ESG) ビジョンを打ち出している。 | MAX 15 |
| ② 財務情報と ESG 等の非財務情報の統合を図ろうとしている。             | MAX 10 |
| ③ 非財務情報についても XBRL の活用にトライし始めている。             | MAX 7  |

「3」 大変すぐれている

「2」 普通

「1」 劣っている

「0」 記述なし

### 4. ダイバシティ・ポリシー MAX 15

- |                              |        |
|------------------------------|--------|
| ① 中長期のダイバシティ・ポリシーを策定し公表している。 | MAX 15 |
| ② 取締役会のダイバシティ・ポリシーを公表している。   | MAX 15 |
| ③ 女性についてのダイバシティ・ポリシーを公表している。 | MAX 10 |
| ④ ワーク・ライフバランスについて多様な取組がある。   | MAX 5  |

- 「3」 大変すぐれている
- 「2」 普通
- 「1」 劣っている
- 「0」 記述なし

**5. 情報の質** **MAX 10**

- 「3」 CSR 報告書全般について第三者保証がある。
- 「2」 部分的に CSR 保証がある。
- 「1」 カーボンについてのみ保証がある。
- 「0」 信頼性を示す記述なし

**6. その他 総合評価** **MAX 15**

以下の項目について総合的に判断する。

1. GRI G4 について対比表がある。
2. (抜き出せば) 統合報告書の作成は容易である。
3. 日本版ステewardシップコードについての質問の答えとして十分活用できる。
4. 社外取締役がある。
5. その他

※点数の考え方は各項目ごとに上限を設定する加点方式のパターンとし、小項目毎に重みづけを行う。  
以上